

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1034 地域振興事務経費(ふるさと夏まつり助成金)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	61 市内外から多様な主体を受け入れる、開かれたまちをつくる	目	06	企画費
		細目	122	地域振興経費
行革大綱の重点事項番号		7	細々目	01 地域振興事務経費
担当部課	コード	700100	担当者 氏名	福永 富美子
	名称	大山田支所振興課		
		連絡先	47 - 1150	(内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	大山田ふるさと夏まつり実行委員会	※対象件数
成果(どうする)	大山田ふるさと夏まつり実行委員会が主催する事業の開催。大山田地域の活性化及び伝統(33回)や文化(くれは太鼓、ふるさと音頭)の伝承が図れる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市支所補助金交付要綱	
開始年度	平成 S53 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	下記事業に助成を行った。 第32回大山田ふるさと夏まつり 会場: 大山田せせらぎ運動公園 主催: 大山田ふるさと夏まつり実行委員会 日時: 平成21年8月15日(土) 内容: お祭り太鼓、ふるさと音頭、各種団体出店、創作花火等 来場者: 約6000人	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
実行委員会参画団体		団体	目標	16	目標	16
			実績	16	実績	16
実行委員会開催回数		回	目標	7	目標	7
			実績	8	実績	7

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
来場者数		来場者数により事業のPRの成否 を見ることができる	人	目標	5000	目標	6000
				実績	6000	実績	6000
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	2,495	2,082	2,082	2,082	2,082	2,082	2,082	
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0	0	0	
一般財源	2,495	2,082	2,082	2,082	2,082	2,082		
事業投入人件費(B)	0.6人	4,320	0.3人	2,160	0.2人	1,440	0.1人	720
フルコスト(A)+(B)	6,815	4,242	3,522	2,802				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
大山田ふるさと夏まつりは、お盆の帰省者の帰郷を促す、地元団体の活性化を図る、地元活性化大会として33回を迎え、各団体から集まった実行委員が資金を寄せ、寄付金は住民及び企業からおおよそ200万円である		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	地域の賑わい作り、活性化のためにも、大山田地域のまつりとして今後も盛り上げていく必要がある。そのためにも今までは事務局を支所が担当していたが、これを住民自治協議会が担うなど地域の自主運営となるように促していく必要がある。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 事務局を実行委員会に置き、行政から実行委員会への事務の移行を進めた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	土永 瑞穂
事業の方向性	【方向性】 内容変更 【理由】 今後の補助金削減を踏まえて対応できるような準備と、イベント内容を一層創意工夫していくことが必要である。
現時点における課題、その他	花火は総て寄付で賄っており、収入が伸び悩む中、出資者としてより多くの市民・企業等の参加が得られるよう創意工夫していくことが必要。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成24年度までに、実行委員会の参加構成団体をより広範にするとともに住民自治協議会を中心に、それぞれが分担して企業協賛の依頼を行う。